

## 株式会社ヒューマンサポートテクノロジー 代表取締役 小野浩二氏



東海村に本社を構える株式会社ヒューマンサポートテクノロジーは、テクノロジーで人をサポートできる技術を社会に送り出すことを経営理念として、2014年3月10日に法人化しました。

事務所は、東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」内の創業オフィスに構え、従業員とともに日々事業に取り組んでいます。

同社の主な事業は、画像認識システムとクラウド管理システムの開発で、特に画像認識システムは、今後様々な用途に展開できる技術です。同社社長の小野氏に画像認識技術への熱い想いと今後の事業戦略をお伺いしました。

インタビュー日：2018年2月16日  
〔聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一〕  
〔文・写真：筑波総研(株) 研究員 富山かなえ〕

### Company data

本社：茨城県那珂郡東海村舟石川駅東3-1-1  
東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」内  
201号  
設立：2014年3月10日  
従業員：4名（大学生アルバイト含む）  
事業内容：画像認識システムおよびクラウドシステムの開発

ご略歴や創業経緯についてお聞かせください。

## 「企業人」から「起業人」へ

私は茨城県常陸大宮市出身で、佐竹高校を卒業後、茨城大学教育学部へ入学し、コンピュータ教育関連の研究に勤めました。

大学卒業後は電気通信大学大学院情報システム学研究科の博士前期課程に進み、コンピュータによる教育システム(CAI)を研究しました。

就職は茨城へ戻り、ひたちなか市内の会社へ入社、約10年間の在籍中に日立製作所の関連業務のほか、画像認識業務に従事しました。

業務に携わるうちに「起業したい」という昔からの夢が膨らみ、退職を決意しました。そして、2012年3月16日に個人事業主として、日立地区産業支援センター「マイクロ・クリエイション・オフィス」内に事務所を構えました。

当時は仕事が成り立たないことも多く、日立地区産業支援センターのスタッフからは手厚いサポートをいただくことができ、大変心強かったです。

## 創業支援が手厚い東海村

その後、当社は2014年3月10日に法人化し、2016年3月に東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」内の創業オフィスへ事務所を移転しました。

ここは、JR常磐線東海駅の東口から徒歩3分という好立地に加え、創業支援室に常駐する創業支援のエキスパートに気軽に相談できるなど、ハード・ソフト面ともに整った施設です。

入居条件は「東海村でこれから創業を目指す、または創業後5年未満であること」です。賃料は面積5㎡で7,200円/月～、館内は24時間365日使用することができます。

入居後の支援も手厚く、自社の業務に適した補助金の案内や申請をサポートしていただけるほか、地域の企業も紹介していただいています。

東海村は原子力を中心とした産業が発展したまちであり、それらに携わる中小企業の技術力も高く、大変刺激を受けています。

入居年数は3年間という制限がありますが、創業者が特定の創業支援事業を適切に受け、創業に必要な4つの知識「経営」「財務」「人財育成」「販



小野代表取締役 事務所の前で

路開拓」を習得したと認められ、さらに、引き続き村内に事務所を構える場合は、退去後も最大50,000円の事務所などの賃料補助を受けることもできます。

御社の経営方針と事業概要についてお聞かせください。

## 「テクノロジーで人を支えたい」

当社の経営方針は、社名「ヒューマンサポートテクノロジー」が示す通り、「テクノロジーで人をサポートできる技術を社会に送り出すこと」です。

創業支援員の一人である川手コーディネーターからは「社名から“人を大切にしたい」というあたたかい気持ちが伝わり、とても魅力ある社名です」と言っていただき、嬉しく感じています。

## 画像認識技術で万引き被害を軽減

当社の主な事業は、画像認識システムの開発とクラウド管理システムの開発です。

画像認識システムとは、カメラで撮影した映像をコンピュータで画像処理し、人の動きをリアルタイムで読み解く技術です。

例えば、当社のシステムが店内をきょろきょろと歩き回る人物を検知した場合、店員の携帯にその場所を通知します。店員は移動先でその人物に声を掛け、商品を探している場合は陳列棚まで案内し、また、不審者だった場合は犯罪を未然に防ぐことができます。

つまり、「販売促進」と「防犯強化」の両面に効果があるのです。



映像から人の動きを分析する画像認識システム

## 大きな可能性を秘める画像認識システム

当社が開発するシステムは新しい分野の製品です。そのため、多くのお客さまが理解し、導入していただくまでには時間がかかります。しかし、私は、画像認識システムがこれから様々な用途に展開できると確信しています。

例えば、空港などで行列が発生した際の窓口増加の判断、店舗に向かう車が増加した場合の駐車場開放の判断、福祉施設における入居者の状況確認などにも当社の画像認識システムを活用することが可能です。

## 今後は「自社製品の開発」に注力

また、当社はクラウド管理システム事業も展開しています。開発例は食品工場の素材管理や製造業の工程管理システム、ホームページの作成などです。

当社の現在の売上げは、お客様の要望に応えたソフトウェア開発、プログラミング作業が多数を占めています。しかし、今後は画像認識システムを活用した自社製品の開発・販売にも注力していく予定です。

現在構想中の自社製品は、工場内での人の動作認識カメラです。このカメラを使うことで、従業員に負担のかかる作業を改善できるほか、効率よく作業を行うことができます。さらに、危険な作業を事前に防ぐことも可能で、重機が動作するエリア内に人が近づいた際は、警報を発することもできます。

今後さらに開発を進め、当社の技術でお客様の安心をサポートして参ります。

他社との差別化を図る戦略をお聞かせください。

## 外部研究機関との共同研究

当社は、県内の研究機関と積極的に共同開発を実施しています。2016年には、茨城大学、茨城県工業技術センターと共同で、リズムに合わせて手と足を動かす健康増進ゲームソフト「運動DEアミーゴ」を開発しました。

また、2017年には、茨城県工業技術センターと共同で、カメラの映像からQRコードを見つけ、解析する「QRコード認識システム」を開発しました。例えば、社員の名札にバーコードを印字し、ドアに取り付けたカメラで認識させることで、社員の出入時刻を記録することができます。



角部屋で明るい事務所の様子

## 世界に認められたAI専門家と連携

当社は2017年から、AIに画像認識させる技術について、茨城大学工学部知能システム工学科の鈴木智也教授の研究室と共同開発を行っています。この研究は、当社が茨城県に個人向けの自社製品の開発について相談した際、鈴木教授をご紹介いただいたことでご縁が繋がりました。

鈴木先生は、AIで市場銘柄の価格変動を読み解く論文を発表されるとともに、合格が困難とされる国際検定で、テクニカルアナリスト（MFTA）の資格を取得されました。

さらに、当該年度の受験者の中で最も優秀な論文提出者に贈られる国際テクニカルアナリスト連盟（IFTA）ジョン・ブルークス賞を受賞し、日本人で3人目という快挙を成し遂げました。

今後、当社は共同研究を通して得た新しいノウハウや斬新な視点を持って、自社製品の開発にさらに邁進していきたいと考えています。

人材確保の取り組みについてお聞かせください。

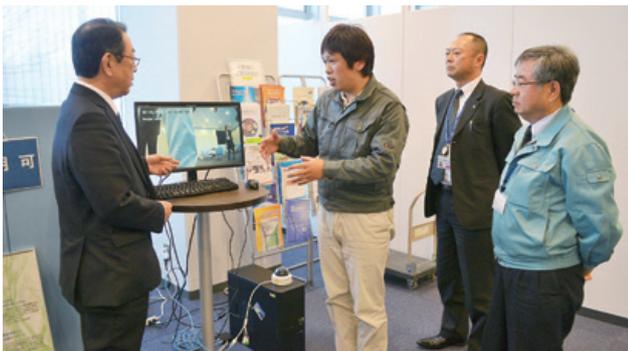
### 首都圏など県外へ流出する若者たち

法人として出発してから4年が経ち、現在では様々な支援のおかげで、県内や都内の企業からの画像処理の受託件数が徐々に増加しています。

今後、さらに大きく強い会社へと成長させていくためには、私たちと一緒に事業を進める人財の確保が必要です。

現在、共同研究先の研究室から各技術に精通した大学生をアルバイトとして数名雇い、一時的に人手不足を解消できていますが、長期的な視点で見るとそれだけでは足りません。

近年、県内の大学などに在籍する若者の多くは、福利厚生や知名度などを理由に大企業に就職する傾向が見受けられます。しかし、私は中小企業の方がより専門的な技術を習得でき、やりがいも格段に違うのではないかと感じています。



画像認識への熱い想いを語る小野代表取締役（中央）

### 理想を追求する社長の姿を魅せる

先日、茨城工業高等専門学校において開催された「茨城高専ジョブセミナー」に参加し当社の会社説明を実施しました。

川手コーディネーターからは「同校の生徒たちは同社の将来性を素早く感じ取り、あっという間にブースは人だかりとなりました。自身が思い描く理想を追求する小野社長の言葉や同社の技術が、生徒たちを強く惹きつけたのだと思います」という感想をいただきました。

今後も当社の技術をはじめ、事業の魅力や可能性を若者たちに伝える機会を増やし、私たちとともに様々な開発に携わっていただける人財を見つけていきたいと考えています。



今後の夢を語る小野代表取締役

最後に、今後の夢をお聞かせください。

### 人をサポートする技術の追求

日本は少子高齢化の時代を迎え、労働力人口は減少し、多くの場面で人手不足が深刻化しています。当社は画像認識技術でこの課題に向き合い、お客さまの事業を支えてきました。

当社のシステムを導入したお客さまからは「助かった」「ありがとう」という感謝の言葉をいただくことができ、私たちのさらなる開発の原動力になっています。

これからも社名「ヒューマンサポートテクノロジー」に込めた想いを胸に、人に役立ち、人をサポートできる技術を追求して参ります

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。



小野代表取締役(中央右)、川手コーディネーター(中央左) 筑波銀行東海支店 高橋支店長(左)と聞き手・藤咲耕一